

第3分科会 研究課題「教育環境整備に関する課題」

研究主題「学校・家庭・地域における安全対策について」～地域学校協働本部会議の取組と防災教室から～
東児湯支会

1 主題設定の理由

近年、子どもを取り巻く環境は生命に関わる事故や事件、災害は後を絶たず、平成13年6月の大坂府池田市での児童殺傷事件、平成23年の東日本大震災、毎年発生する交通事故など学校安全に対する認識を根本から見直していかなければ行けない時代となっている。

学校においては、危機管理意識を一層深めると共に、社会の変化に対応した安全管理体制が求められている。しかし学校のみで地域の子どもを守には限界があり、学校・家庭・地域が連携した取組を推進する必要がある。

本町は日向灘に面し、地震発生の際には津波の被害も想定される。また小丸川をはじめ大小の河川が流れしており、台風が接近した際には洪水や浸水の被害に遭う。さらに町の中心部を国道10号線や幹線道路が通っており、大型車の往来も多く交通事故が心配される。

そこで本研究では、校区内の安全管理について現状を把握し、安心安全な学校、地域づくりについて探るために本主題を設定した。

2 研究のねらい

校区内の「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの観点について、学校、家庭、地域のその現状と課題、及び対策について整理する。

3 研究の概要

(1) 地域学校協働本部の取組

高鍋町内には東西2つの地域学校協働本部があり、昨年度よりそれぞれで学校を取り巻く環境の改善のため、学校や地域で何ができるのか熟議を行い、解決につなげていくことを目標としている。高鍋西区では校区内の安全対策をについて取り上げており、「生活安全」「交通安全」「災害安全」について関係者と熟議を重ねてきた。

① 各テーマの課題と対策

ア 「生活安全」～不審者対策～

(現状・課題)

- ・暗くて水路が見えない場所がある。
- ・街灯が少ない。
- ・中学校の下校時間は真っ暗である。

(対策)

- ・街灯の設置等を行政に要望する。
- ・危険個所を知らせる看板を設置する。
- ・懐中電灯を持参させる。
- ・家庭や学校で不審者対策について話し合う

イ 「生活安全」～SNSへの対応～

(現状・課題)

- ・心無い書き込みやトラブルの増加。
- ・スマートフォン使用の低年齢化や健康被害が起きている。
- ・親より子供の方が詳しい。

(対策)

- ・親子でルールをつくる。
- ・スマートフォンの使い方や研修会を計画的に実施する。
- ・専門家から指導やアドバイスをもらう。

ウ 「交通安全」～通学路の安全対策～

(現状・課題)

- ・通学路が狭い。
- ・集団で広がって登下校する児童生徒。
- ・スクールゾーンを通行する車がいる。

(対策)

- ・家庭、地域、学校での見守りの輪を広げる。
- ・警察への情報提供と現場での指導を強化する。

エ 「交通安全」～自転車のマナー～

(現状・課題)

- ・急な飛び出しや並進走行がある。
- ・歩道の手前を横切ることがある。

(対策)

- ・計画的な交通安全指導

- ・学校、家庭、警察等が立ち番指導や現場指導をしていく。

才「災害安全」～防災意識と訓練～ (現状・課題)

- ・防災訓練の参加者が少なく、大人の防災意識が低い。
- ・教職員が校区内の危険個所や避難所などを把握していない。

(対策)

- ・自治公民館単位で避難訓練の実施を依頼したり、大人向けの防災研修会を実施する。
- ・教職員の研修を年間計画に入れる。
- ・家庭で避難場所の確認をしておく。

力「災害安全」～避難所運営～

(現状・課題)

- ・学校や公民館の避難所としての受け入れ態勢はどうか。
- ・避難所における役割分担や高齢者や障がい者等への支援体制はどうか。

(対策)

- ・定期的に災害弱者名簿の作成や見直しを行う。
- ・実態を把握し、行政へ改善要請をする。
- ・災害時のマニュアルを作成する。

(2) 「防災教室」の実施

①目的

東日本大震災での避難所運営の模擬体験を通して防災意識の向上を図る。

②日時

令和5年10月5日

③参加者

高鍋西中学校3年生全員及び教職員

町内防災士 高鍋町西区学校運営協議会委員

④内容

実際に震災を経験された講師の方を招き、震災の体験談と避難所の運営の仕方を学んだ。体育館を避難所に見立て、「総務班」「設営班」「情報班」等6つの班に分かれ、参加された地域の方々にもご協力をいただき、模擬体験を行なった。



【間隔を取って敷かれたブルーシート】



【情報を整理している「情報班」の生徒】

⑤「防災教室」に参加された方の感想

- ・大規模災害時は中学生も地域の一員として協力し合い、運営側になる必要がある。
- ・日常的に備えに対する意識を持つよう継続した取組が必要であると感じた。

4 研究の成果と課題

(成果)

- ・高鍋町西区の地域学校協働本部において、地域内の「安全対策」について熟議することで、校区内の危険個所にあらためて目を向けるきっかけとなった。
- ・「防災教室」では、避難所運営に視点を向けた体験ができ、学校が避難所としてどのように関り、どのような運営を地域と共にしていくかなくてはならないのかを考えさせられた。

(課題)

- ・学校や保護者そして地域が抱える課題をそれぞれの団体がどのように関り、何ができるのかを自ら考え行動できる組織にしていかなければならない。

